

(社)地盤工学会 室内試験規格・基準委員会  
「平成 20 年度 第 3 回 議事録」

日時	平成 20 年 8 月 26 日 (火) 10:30 ~ 18:00 平成 20 年 8 月 27 日 (水) 9:00 ~ 17:30		場所	地盤工学会会議室	
委員長	後藤 聡		幹事(WG9)	豊田 浩史	
幹事(WG1)	川崎 了		委員	森田 宏	×
委員	小橋 秀俊	×	委員(WG1)	杉井 俊夫	
委員(WG1)	細野 高康		委員(WG2)	川口 正人	27 日のみ
委員(WG2)	太田 岳洋	27 日のみ	委員(WG3)	渡部 要一	26 日のみ
委員(WG3)	山本 肇	26 日 PM のみ	委員(WG4)	仙頭 紀明	
委員(WG4)	畠山 正則		委員(WG4)	上原 真一	
委員(WG5)	横田 聖哉	26 日のみ	委員(WG6)	平井 貴雄	27 日 PM のみ
委員(WG8)	石川 達也 (八木 一善)	26 日 PM のみ			

:出席 :代理出席 ×:欠席  
議事録担当:川崎 了

配布資料(下線は当日配布資料):

資料番号なし:平成 20 年度第 3 回室内試験規格・基準委員会議題書

資料 20-3-1:平成 20 年度第 2 回室内試験規格・基準委員会議事録

資料 20-3-2:室内試験規格・基準委員会平成 20 年度第 1 回幹事会議事録

資料 20-3-3:平成 20 年度第 2 回基準部会議事録

資料 20-3-4:赤本解説原稿一式

資料 20-3-5:平成 20 年度第 3 回室内試験規格・基準委員会タイムスケジュール

議 題:

【審議事項】

(1)岩盤不連続面の一面せん断試験方法の解説原稿の審議

審議の結果,出された意見に対する修正を行った後に9月4日(木)開催の基準部会へ上申することです承された。基準番号は,規則に従って「JGS 2541-2008」とする。修正を担当する WG4 は,9月1日(月)までに,まえがき,基準,基準の解説,基準の英訳,の4つを基準部会の仙頭幹事まで送付する。

(2)赤本解説原稿の査読

各 WG の幹事に対して事前に査読する WG の担当を割り振り,本委員会の全員で解説原稿の査読を実施した(WG4 を除く)。各 WG の詳細な査読結果および修正意見が加筆された解説原稿は,査読した各 WG から当該 WG までプリント出力あるいは電子ファイルで渡すことになった。

原稿の完成度および査読により出された主な修正意見は,以下に記載するとおりである。なお,今回は残りの WG4 の解説原稿の査読を行う。

## <WG 共通>

- ・各 WG(編)のページ数については、ほぼ当初予定していたとおりである。
- ・原稿執筆要領に従い、書式(文字数、行数、文字フォント、文字サイズ、字体など)、細目、箇条書きなどの見直し・修正が必要である。
- ・土関係の試験に関するデータシートは、基本的に 2000 年に改訂された赤本のものを使う。
- ・透水係数の単位「cm/s」については、すべて「m/s」に変更し、全体で統一する。
- ・外国人名として記述する場合は原語を記し、日本語読みをカッコ内に入れる。反復して使用する場合は原語のみとする。例えば、「Darcy(ダルシー)」と記した場合、以降は「Darcy」とする。
- ・「ダルシーの法則」や「ランキン土圧」などのように学術語として表記する場合は、カタカナを使用する。
- ・規格や基準の改正の経緯については、WG1 の規格や基準の記載例を参考にする。
- ・BS 規格については、最新の規格を入手して内容を確認した後、年号を記載しない。また、これにあわせ、JIS や JGS についても同じ取扱いとする。
- ・JIS と JGS については引用・参考文献に記載しなくてもよいが、その他の規格(ASTM, BS など)については引用・参考文献に詳細を記載する。
- ・「締固め」や「繰返し」のような名詞として使用する場合と、「締め固める」や「繰り返して」のような動詞として使用する場合は、送り仮名の使い方が異なる点に注意する。
- ・カクハンは「攪拌」と表記する。
- ・赤本の「付録」の「6. 基準およびデータシートの改変経緯」については、各 WG で最新版となるように追記を行う。
- ・「本基準」、「当基準」、「この基準」の表記は、解説では「本基準」を使用して統一する。
- ・細目の使用時には注意が必要である。特に、第 2 細目については、「i), ii), iii).....」を使用する。
- ・本文中の規格(JIS, ASTM, BS など)や基準(JGS)の表記はゴシック体とする。
- ・本文の章・節・項、細目などの見出し(タイトル)の後は、同じ行内に続けて書かずに改行する。
- ・「ヨシ」などの植物名はカタカナ表記とする。
- ・「旧日本道路公団」の表記は「東・中・西日本高速道路(株)」とする。
- ・図および表で使用する言語は日本語を使用し、英語はすべて日本語に修正する。
- ・「不攪乱試料」という表現は使用せず、地盤工学用語辞典に従い「乱さない試料」を使用する。
- ・専門用語については、地盤工学用語辞典を参照する。
- ・章・節・項などの見出し(タイトル)には「,」を使用せず、「・」、「および」、「と」などを使用する。
- ・「OCR」、「CBR」、「pH」などは半角を使用する。また、イタリック体(斜体)にせず、立体文字を使用する。
- ・JIS Z 8301 の 62 ページに従い、図、表、本文中のカタカナ表記における語尾の「ー」を修正する。例えば、ピーカー、レギュレーター、ブルドーザー、スパーサーは、それぞれピーカ、レギュレータ、ブルドーザ、スパーサ、となる。
- ・外来語の表記は、例えば「von Post(フォンポスト)」とし、人名として使用する場合には原語、フォンポスト法などのように学術語として使用する場合には日本語のカタカナを使用する。
- ・「1000」などのように、千以上の数値の表記にはカンマ「,」を入れない。
- ・引用・参考文献のページ範囲には「～」を使用する。例えば、「pp.25～35」のように表記する。

- ・引用・参考文献の英語著者名は、ファミリーネームを最初に書く。
- ・式には、必ず番号を前から順番に付ける。
- ・例えば「5 ～ 80 まで」は、「5 ～ 80 」あるいは「5 から 80 まで」と表記する。
- ・引用・参考文献の日本語表記で、著者と著者の間は「,」を使用せず、「・」を使用する。
- ・引用した図や表には、必ず出典をキャプションに明記する。
- ・カラー表示の図については、白黒印刷でも判読できるかどうかを確認し、もし判読できない場合は修正を行う。
- ・例えば「40～60m」の表現は、単位を数値の両方の後に付けて「40m～60m」に修正する。
- ・JIS Z 8202-1に従い、リットルの単位表記には小文字のエル「l」（立体）を使用する。
- ・マイナス「-」、プラス「+」、イコール「=」は全角を使用する。
- ・英数字は半角文字を使用する。例えば、「Terzaghi」、「1 時間後」、「1～2 個」などのように記す。

#### <WG1>

- ・「ダイレタンシー」は「ダイレイタンシー」に修正する。（工学的分類）
- ・「2.5.2 日本におけるその他の分類法」の部分は、WG8 と内容について調整する。（工学的分類）
- ・「通常 3 桁」は有効数字の意味なのか確認を行う。（含水比）
- ・デシケータを使用しない場合に、乾燥した試料が空気中の水分を吸わないようにするために容器にフタをつけるなどの記述を加筆する。（含水比）
- ・章番号「9」を「8」に修正する。（湿潤密度）
- ・「有効数値小数 3 桁以上」を削除する。（湿潤密度）
- ・「通常有効数字 3 桁または 4 桁」は「通常小数点以下 3 桁」に修正する。（湿潤密度）
- ・引用・参考文献の発行年や番号の見直しを行う。（超音波パルス）
- ・「 $\rho_c$ 」の説明を加筆する。（最小密度・最大密度）
- ・表 - 1.4.1 および表 - 1.4.2 の「土の化学的性質の試験」に「CEC 試験」を加筆する。（乱した土の試料調製）
- ・ふるいの「呼び寸法」には「目開き」を使用する。（粒度試験）
- ・「表面から自由落下させ」は「表面から自重により貫入させ」に修正する。（液性・塑性）
- ・「大なり小なり」の表現を工夫する。（液性・塑性）
- ・サクシジョンの記号「Q」を「s」に修正する。（収縮定数）

#### <WG2>

- ・基準の改正の経緯をわかりやすく加筆・修正する。
- ・本文中の引用・文献番号は片カッコを使用する。（水溶性成分）
- ・「5.3.1 規格の補足説明」の基準の番号を確認する。（強熱減量）
- ・他の編（WG）と章立てをあわせるため、いきなり基準の番号による箇条書き表現とせず、各箇条書きの最初にタイトルを加筆する。
- ・「土と基礎」は「地盤工学会誌」に修正する。（CEC）
- ・「参考文献」は「引用・参考文献」に修正する。（CEC）
- ・ISO 規格の引用・参考文献の書き方は、CEC の文献番号「4）」にあわせる。

- ・未完の章があるので、次回の委員会において査読する。

<WG3>

- ・圧密試験に関しては原稿が初稿のレベルであり、これからも加筆する予定である。
- ・土の定ひずみ速度載荷による圧密試験方法における大きな変更箇所は、透水係数の計算方法が変更になったことである。
- ・データシートを一部修正する必要がある。
- ・透水試験に関しては、ほとんど変更していない。
- ・透水係数の換算温度として 15 を基準としているが、欧米では 20 が主流であること、および 15 に換算する理由について解説に追加する。

<WG5>

- ・赤本の「付録」の「7. 薬液注入工法に関する暫定指針」に関しては、最新版かどうか現状を確認する。
- ・CBR 試験の貫入量 5mm の意味について解説に加筆する。
- ・CBR は貫入量 2.5mm における値とするが、2.5mm の値よりも 5mm の値の方が大きくなった場合には再試験を実施することになる。その場合には 5mm の値が 2 つ存在することになるため、これらをどのように処理すればよいのか解説に書いて欲しい。
- ・最新の薬液注入技術に関して解説に加筆する。

<WG6>

- ・「精度」、「計測」の表現は使わない。「精度」には「範囲内」を、「計測」には「測定」を使用する。
- ・「計算する」は「算出する」に修正する。
- ・表 - 2 が 2 つあるため修正する。(第 4 章)
- ・「雰囲気温度」の説明を加筆する。(第 4 章)
- ・「ネッキング」の説明を加筆する。(第 5 章)
- ・「0.01mm 以上の精度」の表現を再検討する。(第 5 章)
- ・図 - 3 のハッチング部分の説明を加筆する。(第 5 章)
- ・表 - 2 の引用箇所が本文中に見当たらないので確認する。(第 5 章)
- ・表 - 1 の「ふるいサイズ」を「ふるいの目開き」に修正する。(第 5 章)
- ・引用・参考文献の書式を正しく修正する。
- ・「成形」は「成型」に修正する。(第 6 章)
- ・図 - 4、図 - 5、図 - 6 の引用・参考文献を加筆する。(第 6 章)
- ・「付帯条項」は「注記」に修正する。(第 6 章)
- ・「引抜き代」は「引抜きしろ」に修正する。(第 6 章)
- ・「本基準(10)」は「本基準 10」に修正する。(第 6 章)
- ・引用・参考文献の 9)以降が本文中で引用されていないので、見直しを行う。(第 6 章)
- ・図 - 9 の英語を日本語に修正する。(第 6 章)

<WG8>

- ・第3章は修正が未完了であるが、その他は完成している。
- ・第5章で「風化残積土」の表現を使う理由と、内容として「まさ土」を主に扱うことを加筆する。
- ・「弛め」の表現が正しい使い方なのかどうか確認する。
- ・引用・参考文献の表記方法を確認する。
- ・「試験用具」は「試験器具」に修正する。
- ・ページ数を再度確認する。

### (3) 今後の作業スケジュールの確認

赤本改訂版の原稿に関する今後の作業スケジュールについて確認を行った。具体的には、次のとおりである。

- ・2008年10月末日：各WGによる解説原稿の修正完了，各WGのグループリーダーと幹事による赤本改訂版原稿(基準，基準の解説，付録)の査読完了
- ・2008年11月末日：本委員会幹事会による赤本改訂版原稿の査読完了
- ・2008年12月中旬：各WGによる赤本改訂版原稿の最終修正完了
- ・2008年12月末日：赤本改訂版原稿の入稿
- ・2009年2月～3月：初稿原稿の校正
- ・2009年10月末日：赤本改訂版の印刷・製本完了
- ・2009年11月1日：赤本改訂版の販売開始

### (4) その他

- ・日本規格協会を經由して地盤工学会まで提出された学生会員の質問については、質問の内容に最も関係するWG3が至急対応することになった。
- ・カラー原稿の使用の可否について議論した。前回改訂時の印刷業者による見積りでは、4ページのカラーページを含む印刷費は2000部を製本した場合に62円/冊と比較的安価であることから、既にカラー使用のページに関してはカラー原稿の使用を認めることになった。なお、現場の写真についてはトリミングや文字消しを行い、写っている作業員やメーカー名などを削除する。
- ・「第1編 総説」の目次および執筆者について議論した。その結果、目次は変更せずに現状のままとすること、また、執筆者については後藤委員長が原案を作成した後に個別に依頼することで了承された。

### 【報告事項】

#### (1) 室内試験規格・基準委員会平成20年度第1回幹事会の報告

資料20-3-2を用いて、平成20年度第1回幹事会の報告が行われた。その主な項目は、審議事項としては、赤本の解説の査読について、総説と付録の執筆について、であり、報告事項としては、理事会報告、岩盤不連続面の一面せん断試験方法、JIS一部改正の公示について、HPへの情報公開状況について、予算の執行状況について、土質試験基本と手引きの改訂について、であった。

(2)平成 20 年度第 4 回理事会の報告

平成 20 年度第 4 回理事会の報告が口頭で行われた。JIS 規格改正については、理事会で問題なく承認された。赤本の改訂は、地盤工学会 60 周年記念事業の中に組み込まれることになった。ふるいの ISO 規格に関して調査して欲しい旨の依頼があり、本委員会としては今後 ISO 国内委員会と一緒に対応していくことになった。

(3)平成 20 年度第 2 回基準部会の報告

資料 20-3-3 を用いて、平成 20 年度第 2 回基準部会の報告が行われた。その主な項目は、次のとおりである。 CEN/TC 341/WG6 への“Laboratory tests on soils” Expert の推薦、 WG4 のメンバー追加、 日本粉体工業技術協会からの要請による ISO/TC24 のふるい関係の委員派遣、 JISC 土木技術専門委員会への委員派遣、 公示した JIS 規格素案の承認

(4)その他

- ・JIS の改正規格原案が、地盤工学会から国土交通省住宅局住宅生産課まで提出された旨の報告があった。
- ・次回の委員会は、次の 3 つの候補日の中から日程調整を実施して開催する。その主な議題は、WG4 関係の解説原稿の審議が中心となる。

第 1 候補: 10 月 6 日(月)10:30 ~ 17:30

第 2 候補: 10 月 3 日(金)10:30 ~ 17:30

第 3 候補: 10 月 2 日(木)10:30 ~ 17:30

以上